

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670102169
法人名	有限会社 エーベック
事業所名	グループホーム人生の楽園
訪問調査日	平成 21年 2月 6日
評価確定日	平成 21年 3月 14日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	670102169		
法人名	有限会社 エーベック		
事業所名	グループホーム人生の楽園		
所在地 (電話番号)	山形県山形市大字風間1261番1 (電話) 023 - 686 - 4482		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年3月14日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費600円/日他実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.2歳	最低 74歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安孫子内科医院・加藤歯科医院・ファミリークリニックやざわ
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

目の前には高瀬川が広がり、後方は大岡山がどっしりと腰を据えており、また事業所周囲は仲間たちの大好きな畑があり30種類ほどの野菜の収穫もでき、まさに理念の中に取り入れられている「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」の3つが揃った楽園です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価に対する職員の関わりが少ないことを踏まえて今回は全職員で取り組み、サービスの質の確保、向上に活かしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価をふまえて今回は全職員で取り組み、まず自己評価への理解、職員の意識あわせを行いながらサービスの質の確保向上に活かしていく姿が見られる
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所を会場に2ヶ月に1回定期的に開催され、事業所からの報告とともに、メンバーからの積極的な参加と意見が出され、サービスの向上につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会の開催や玄関に「苦情箱」を設け、家族等が職員に意見や不満などを伝えられる機会等の場面作りが見られる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地区の盆踊り、運動会へ参加したり祭りの子供神輿や芋煮会への協力あるいは近隣の楯山小の社会科見学を受け入れたり、地域の一員として交流の場を広げている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3年前の立ち上げ時の説明会には地域住民からも足を運んで頂き、利用者を第一に考えての取り組みとし、住み慣れた地域での安心した暮らしを支える為の柔軟な支援が行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	要所毎に理念が掲示されており、その人らしく = 尊重 = 自然体で型にはまらず臨機応変にを職員間で話し合われ理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の盆踊り、運動会へ参加したり、祭りの子供神輿や芋煮会への協力をしている。また、近隣の楯山小の社会科見学を受け入れたり、地域の一員として交流の場を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を踏まえて今回は全職員で取り組み、まず自己評価への理解、職員の意識あわせを行いながらサービスの質の確保向上に活かしていく姿が見られる		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所を会場に2ヶ月に1回定期的に開催され、事業所からの報告とともに、メンバーからの積極的な参加と意見が出され、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	10月から市の介護相談員を受け入れ、月に1回、利用者全員との交流をしていただいている。また推進会議の報告を兼ねて市担当者との関係作りが積極的に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	状況報告書(ケアプランに沿って月1回)を請求書と一緒に郵送し家族からの要望や本音を伝えてもらうことにも繋げている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や玄関に「苦情箱」を設け、家族等が職員に意見や不満などを伝えられる機会等の場面作りが見られる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで職員の異動はないが、利用者のダメージを防ぐことや職員間でのマンネリを防ぐ為にも、半月に1回担当者を変え全員での関わる取り組みが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修の年間計画が立てられ、学びの機会が確保されている中で、新人採用から6ヶ月間は指導責任者が付き、業務日報という形で日々記入してもらい職員育成に力を入れている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、その中で支援研修時にはスタッフ育成の為にも良い刺激となり、さらなる質の向上に励んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 馴染みながらのサービス 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側に捉われない関わりを大切に、幼い頃の話や苦労話に耳を傾け場面作りや声かけが出来ており、とてもいい関係がつけられている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを大切に、個人の希望等の把握に努めている。入所者の一人は、夜になると必ず自分の腕時計と財布を職員に預けるなど、そのちょっとした関わりも大切な交流と捉えるなど、様々な取り組みも見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	地域の中で、その人らしく本人が暮らしていくための介護計画であることを、家族や関係者とともに話し合い、一人ひとりのその時点で添った個別具体的な計画作成となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に応じて臨機応変に見直しをされ、予防的計画の見直しとしては生活そのものをリハビリに繋げている。例えば立位、座位に関わらず、日々の簡単な体操、洗濯物干しやたたみ方などの支援が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ほとんどの利用者が家族同意の基に往診の形を取っ ている。職員が付き添い受診する場合もあり、受診結 果は電話で家族に報告を行い職員は送り、業務日 誌で共有が図れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	状況に応じて、家族と話し合い、希望により老健、特養 に申込みの方もいるが、本人、家族、かかりつけ医との 話し合い、対応方針の共有がなされていない。		重度化した場合の対応のあり方について、できるだけ早 期から本人、家族、かかりつけ医、ケア関係者との話し合 いを繰り返し、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏ま えて、方針の共有を図ることに期待されたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	昨年の評価から、改善課題を検討し、ケース記録の取 り扱いについては、保管場所を確保し、日々の関わり の中では、言葉かけ、トイレ誘導等にも配慮し、プライ バシーの保護に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のペースにならないように心がけ、一人ひとりの 生活のリズムに合わせ過ぎている。食事時間帯等は 「皆と一緒に食べること」の利用者の家族意識を大切 に支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる段階から利用者に聞き取りを行い、旬の食材(自家栽培)も考慮し、利用者と職員と一緒に料理作りをし、月1回の夕食、配食弁当等も取り入れ食事を楽しむことの支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調面で希望の時間に入浴できない利用者もいるが、拒む利用者は見られず、湯舟も広々しており、1対1の個別ケアの場と考え、温泉感覚でくつろいだ気分で入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から把握し、畑作り、編み物、歌、ちぎり絵等、又利用者の中には家族意識があり、「一家の長」という役割をしている利用者もおり、「本人が生きることへの支援」という本来の関わりのあり方、ケアのあり方への気づきが職員間で深められている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	短時間でも花に水やりをしたり、買い物、散歩、ドライブ、野菜の収穫等、戸外に出る機会を作り気分転換が図れている。お正月、お盆には家族の協力も得ながら帰宅して墓参り、仏様参りする等本人の希望の支援がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員は「鍵をかけないケアの意義」を理解し、日中は施錠していない。帰宅願望がある利用者は、職員と一緒に付き添い、地域の人との協力体制があり安全に過せる工夫に取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間帯を想定した訓練は、まだ行われていないが、緊急マニュアルを作成し避難訓練は年2回行われており、備蓄の備えも確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量をチェックし、献立のカロリー計算を行い、朝食はおかゆ、肉の変わりに本人の希望に合わせ、さつま揚げにする等、栄養バランスも考慮しながら様々な面から支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両側に居室、中央に広々としたリビングに大きな窓があり、ゆったりとしたソファが置かれている。居間には利用者と職員で作った季節毎のちぎり絵が飾っており、台所の調理風景からも五感刺激を感じ、居心地よく過せる工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの馴染みのベット、タンス等を持ち込み、家族との写真、利用者手作りのものが置かれ安心して居心地よく過せるような配慮をしている。又、タンスの置き場所も本人の意向で歩く時、手摺代わりにできるよう工夫がされている。		